

ラコルタからのお知らせ

※費用が明示されていないイベントは無料です。
※申込期限が書かれていない場合は当日までです。
※お申し込み・お問い合わせはラコルタまで。

～ボランティアしませんか？～



働きざかりの方や家事・勉強に忙しい方などに、週末や余暇の新しい過ごし方として、「短時間でできる(ぷち)ボランティア活動」のプログラムを提供します。詳細はホームページで。
<http://suita-koueki.org/puchiboraprogram/>



ラコルタが行うイベントや活動を応援し、ボランティアとしてお手伝いしていただきます。

NPOの悩みを解決！～NPO法人専門相談～

日々の活動で直面する問題・課題についてご相談下さい。

●日時：1月16日(木)、3月20日(木)
いずれも 16:00～19:00 ●申込：3日前までに要予約

自分にあったボランティア活動を見つけませんか？ ～市民公益活動入門講座～

●日時：1月23日(木)、2月27日(木)、3月27日(木)
いずれも 13:30～15:00
●対象：ボランティア活動が初めての方、興味はあるけれどどうしていいかわからない方など ●定員：先着 10名

ともに学び、ともに考えよう！～NPO法人入門講座～

NPOとは何か、NPO法人制度、NPO法人申請の仕方についてもご説明します。

●日時：2月13日(木) 14:00～15:30
●対象：市内でNPO法人の立ち上げを考えている方
●定員：先着 10名
●申込：2月1日(土)から12日(水)まで

市民公益活動団体のための労務相談！ ～社会保険労務士が質問にお答えします～

●日時：2月8日(土) 19:00～21:00 ●定員：先着2団体
●申込：1月7日(火)から31日(金)まで

NPOが活用できる助成金について！(第3回) ～今回は吹田市の市民公益活動促進補助金について～

●日時：3月1日(土) 14:00～15:30 ●定員：先着20名
●申込：2月1日(土)から28日(金)まで

その他の施設のご案内

※費用が明示されていないイベントは無料です。
※申込期限が書かれていない場合は当日までです。
※お申し込み・お問い合わせは各施設まで。

浜屋敷 ～吹田歴史文化まちづくりセンター～

電話：06-4860-9731

新春かるたあそび

小倉百人一首。伝統のかかるた遊びを楽しみましょう！
おとなも子どもも参加できます。

■日時：1月19日(日) 13:00～15:00
■定員：先着 30名 ■参加費 200円(小学生以下無料)
■申込：1月5日(日)から電話で

ゆいぴあ ～子育て青少年拠点夢つながり未来館～

電話：青少年活動サポートプラザ 06-6816-8552

青少年活動サポートプラザのクリスマス・イベント

～冬の星座を知ろう～

■日時：12月23日(月・祝) 11:00～15:00
■内容：ドームにプラネタリウムを映写。ボランティアによる星座の説明や青少年によるカフェ(有料)も。

～第3回 Whale フェスティバル～

■日時：12月23日(月・祝) 13:00～16:00
■内容：吹田市内の青少年によるステージ発表

お正月だよ！ゆいぴあに全員集合 ～昔ながらのお正月遊びや、もちつきなどを楽しみましょう！～

■日時：1月11日(土) 10:00～12:00…お正月遊び
12:00～…もちつき ※参加費 300円(もち代)
■対象：3歳から30歳まで(就学前の幼児は保護者同伴)
■定員：もちつきのみ 40組(事前申し込み必要)
■申込：もちつきの申し込みは12月15日(日)までに
電話もしくは直接同プラザへ。多数抽選。

社会福祉協議会 ～ボランティアセンター～

電話：06-6339-1254 FAX：06-6339-1202

第2回子育て支援傾聴ボランティア養成講座

■日時：2月6日(木)・14日(金)・20日(木)・28日(金)、
3月7日(金)の各 10:00～12:00(5回連続講座)
■定員：先着 30人(1歳～就学前まで保育可能)
■受講費：2,000円
■申込：1月6日(月)～31日(金)までに電話かFAXで

2月6日(木)は鈴木絹英講師による公開講演会。
「子育てに必要な傾聴とは」。講演のみも参加可能。
(無料)申込につき、詳しくはお問い合わせください。

編集後記

市民公益活動団体のネットワーク「復興支援すいた市民会議」の有志と宮城県と福島県を訪問し、現地の復興に努める団体と交流してきました。東北の今を知るにつれて、課題の変化と共に、遠く離れた私たちができることを改めてラコルタで発信していく必要性を感じました。(柳瀬)

＜発行責任者＞柳瀬真佐子
＜編集スタッフ＞茨木由美・岩井聰・鍵谷誠一・
佐藤和男・李 顥 (五十音順)



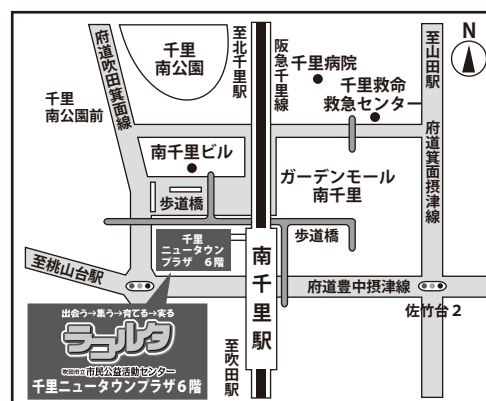
出会う→集う→育てる→実る



吹田市立市民公益活動センター

〒565-0862 吹田市津雲台1丁目2番1号
千里ニュータウンプラザ6階
TEL 06-6155-3167 FAX 06-6833-9851
Eメール info@suita-koueki.org
ホームページ <http://suita-koueki.org>

指定管理者 NPO 法人 市民ネットすいた



Newsletter VOL.5



ウオちゃん ルタちゃん

出会う→集う→育てる→実る



吹田市立市民公益活動センター

●ラコルタの方針●

- ①市民公益活動を行うNPOやボランティアの活動を支援する
- ②社会に役立つことを始めようとする市民や事業者を増やす
- ③市民公益活動団体と教育・研究機関や行政との間で交流を深め、情報を共有する
- ④市民公益活動を支援できる人材の育成を図り、協働によるまちづくりを推進する

オープンしてもう1年3ヶ月たちました！

昨年9月にラコルタ(吹田市立市民公益活動センター)を開設してから、1年3か月が経ちました。9月に無事1周年記念事業を開催できたのも、多くの関係機関、関係者のご助力と、ラコルタを応援してくださり、利用いただきました皆さまのおかげです。ご支援ならびにご声援をいただき本当にありがとうございました。

ふりかえると、この1年余りは全てが手探りの日々でした。その度に、ご利用くださっている皆さまの温かいお言葉に励まされ、おかげさまで、今年9月には開設から約45,000人の来館者を迎えることができました。

今後も、市民公益活動の推進を通して、吹田がより魅力ある豊かなまちへとなるお手伝いをしていきます。今後もラコルタへのご声援をよろしくお願い致します。＜センター長・柳瀬＞



ラコルタ1周年
記念ウィーク期間中、
ご来館ありがとうございます。

9月10日から1週間、
2,055人にご来館

いただきました。
大盛況の中、無事千秋楽を
迎えられました。

1年以上の時間が経ち、最近、ラコルタがやっと皆さんに知っていただけるようになってきたかなあ、と感じます。ラコルタは不思議な場所で、ここに足を運んでくださる方はみんないい人達ばかりです。嬉しくなるような出来事が沢山ありました。より活発な市民公益活動の応援施設になれるよう、益々頑張りたいです。



普段は家事や子育てに追われているけれど、皆さまとのふれあいを通して、日常生活の中でも市民公益活動に参画出来る接点があるんだ！と気付きました。

同じような気付きを利用者の方にも分っていただけるように働きかけていきたいです。

集う「ラコルタ」に情報あり。情報あるところに新しい知恵が湧く。



スタッフとして
この一年を振り返って...

ラコルタで社会人デビューした私！オープンから毎日が勉強でした。吹田についての知識があまり無かったのですが、この1年余りで色々な方からも教わり、少しずつ「吹田学」を深めています！私はボランティアをすることが大好きなので、この楽しさをもっともっと多くの方に伝え、市民公益活動をより活発にしていきたいと思っています。



「市民公益活動」、「協働」、「社会貢献」…等と、堅苦しい言葉でラコルタが語られることが多いように思います。これからは、普段あまりラコルタをご利用されない方たちへも伝わるように、身近な呼びかけや広報について、もっと考えていかないと!!! と思っています。



ラコルタで仕事をさせていただいて、市民の皆様が公益活動に大変熱心なのに驚き、感動しています！ラコルタは、毎日が学びの連続。今まで経験してきたことが、何一つ無駄ではなかった！と教えてくれる場所でもあります。これからも人との繋がりを丁寧に紡ぎながら、市民公益活動をしっかりサポート出来るよう、コツコツ頑張っていきます！

若者が直面するボランティア活動の課題とは・・・

吹田市とラコルタが今年協働で行なったボランティアグループ・NPO 実態調査では、若年層の多くが市民公益活動に参加できていない現状が明らかになりました。そこで、ラコルタでは若年層がより市民公益活動に関心を持ってもらえるような取り組みを始めています。その一環として、若年層に向けた「社会貢献ハンドブック（仮題）」の発行に向けて、ボランティア活動をしている大学生に集まってもらい、9月26日（木）に座談会を開催しました。その場で、若者のボランティア活動の現状と直面する課題が見えてきました。

そんな簡単なもんちゃうぞ！みたいな
＜渡邊さん＞

東北への支援を主な活動として団体を興した渡邊さん。関西の学生が東北に目を向けるきっかけづくりを行う中で、団体を率いるリーダーとしての大変さを身に染みて感じると話します。「ボランティアって一番しやすい社会貢献活動って言われるんですけど、自分の中ではちょっとむかつく部分があって、そんな簡単なもんちゃうぞ、みたいな。」社会貢献活動の一つとして、誰でもが取り組みやすいと言われるボランティア活動ですが、社会課題に対して持続的かつ自律的に取り組むことへの難しさを訴えていました。



ボランティアという言葉のとらえ方に疑問を持っている
＜齊藤さん＞

他団体の支援を受けて岩手県野田村の被災地支援を行っている齊藤さんは「ボランティアという言葉のとらえ方に疑問を持っている。自発的に無償で活動をしているけど、活動費（東北までのバス代など）はかかるわけだし、実際には費用面での支援があるから活動できている。」他団体から経済的支援を受けて活動が継続できているので、ボランティア活動＝無償の活動というイメージには違和感を持っていると話します。



ボランティアはハードルが高いというイメージがある
＜山野さん＞

山野さんは「自分の中にも、まだボランティアはハードルが高いというイメージがあって、ボランティアをしてない友達と一緒に話している時に自覚することがある。」

自分がやっていることは、ボランティアというよりは、ただ楽しいから参加している。その楽しさを人に伝えることはできても、実際に活動に誘うのは難しい。参加するかどうかは本人が決めることだし。」



一緒に活動する仲間を増やすことや同世代の友人に活動を共感してもらうことに難しさを感じているようです。

やらされているならボランティアじゃない
＜馬場さん＞

「ボランティアの楽しさってやってみないとわからないし、説明してわかってもらえるものでもない。やろうっていうのは自発的なものだから、やらされているならボランティアじゃない。まずは、みんなが活動していて楽しいと思えるような場づくりが大切なんじゃないかな。」馬場さんは伝えることよりも、活動に参加した誰もが楽しさを共有できるような「開かれた場」を存在させることに価値を置いています。



やっていない人にとっては、偽善というかそういう風に見えるのかな
＜山口さん＞

「海外でボランティア活動するサークルがあって、その友達と話をしていると話が合うんですけど、それ以外の人からは、『ボランティアをなんでやってるの？』とか、『それやる意味あるの？』と聞かれます。ボランティアやってない人にとっては、偽善というか、そういう風に見えるのかな。」他の出席者からも、ボランティアは偽善行為だと思われることに不満を感じるという意見が出ました。



座談会に参加してくれた若者は5名。東日本大震災の被災体験をきっかけに活動を始めた渡邊さん、友人・知人に誘われてという齊藤さんや馬場さん、自分のやりたいことを実現するために参加したという山野さん、山口さん。活動する分野も活動を始めたきっかけも様々ですが、「活動先で出会う人からの感謝の言葉」や「人とのつながりから得られる心の充足感」、「自身の居場所を得た安心感」などが活動継続の鍵となっているようです。ボランティアの楽しさや喜びが語られる一方で、周囲が抱くボランティアに対するイメージと現実とのギャップに悩むという意見が多数出てきました。

このように座談会では、若者たちのボランティア活動に共通する課題が見えてきました。

- 同世代の持つイメージとして、ボランティア＝「偽善行為」「自己満足」「敷居が高い」といったものが根強くあり、活動していることを隠してしまう傾向にあること。
- 同世代にも活動を広げたいが、自分の言葉で意味や意義が伝えきれないこと。
- 活動にかかる経済的負担があること。

これらの課題を解決していくには、活動に参加することによって生まれる人とのつながりや、やりがいなど、活動すること自体のメリットと共に、結果として社会にどんな影響を与えることができるのか、そういったことを見えやすく、イメージしやすくすることが先決です。渡邊さんからは1つの提案として、ボランティアへの誤解を解くためにも、自分の活動の目的や意義を「言葉にする」ことが必要だと話されました。「お前ボランティアやるキャラちゃうやんってめっちゃ言われるんですけど、やっていることを説明してみると、『俺もやってみようかな』っていうやつが出てくるんですよ。」彼の場合、活動内容や被災地の様子を周囲に説明することで、仲間を増やし活動の広がりをつくっています。

また、ラコルタでは助成金などの社会資源の活用や、若者の持つ多様な能力を発揮してもらえるような地域社会での仕組みづくりも必要と考えました。

市民公益活動が何らかの社会課題を解決していくものならば、若者のボランティア活動についても、それぞれが対象としている問題を解決することが最終的な目的となります。そこまでのプロセスの中で上記の課題解決と一緒に取り組み、応援していくことが、ラコルタの役割の一つであり、若者のボランティア活動をはじめとする市民公益活動への参加を促すことにつながっていくのではないかと考えます。

現在、ラコルタでは「社会貢献ハンドブック（仮題）」の制作の準備を進めています。今まで社会貢献活動に関わったことのない人が地域や社会に関心を抱き、自分なりの活動を始めるきっかけになればと願っています。

連載 私たちの団体・私たちの活動

第2回 市民公益活動団体インタビュー
ナルク(NALC)吹田友遊悠
代表 内山 博さん

Q ナルクはどういう団体ですか？活動のきっかけは？

A 自立・奉仕・助け合いを目的に時間預託(※1)という制度を使い、高齢者や弱者介護・子育て支援を会員同士が助け合うボランティア団体です。私がボランティアを始めたきっかけは、阪神淡路大震災の被災体験やアメリカ滞在中に培ったボランティアスピリッツが根底にあり、ナルクの相互扶助という理念にもマッチしていたと思います。
(※1) サービスが必要な会員に特技を提供し、その活動時間を点数として貯蓄。サービスが必要なときに点数を引き出して受けられる善意の交換制度。

Q ナルク吹田の活動内容を教えてください。

A 吹田の会員は現在約160名。再来年には創立20周年を迎えます。活動としては、例えば病院への送迎が必要であれば車を運転できる会員を、庭の草取りや家事の支援要請があれば、それに対応できる会員を紹介し、会員が無理なくできる支援をコーディネートします。愛情とふれあいの精神がここにあり、時には相互扶助に留まらず、奉仕活動もおこなっています。地域交流のひとつに、特別養護老人ホーム（弘済院等）の喫茶支援があります。約30名の会員が入居者の方たちとのふれあいを行っています。また、ウォーキング・カラオケや麻雀・卓球など10の同好会があり、お互いが健康で仲良くをモットーに会員同士の信頼関係を深めています。

Q これからの意気込みをお願いします！

A 社会のニーズの多様化に対応する活動会員が不足しております。若い人の力も必要ですが、団塊世代の方にも共に活動していただきたいです。専門性はないが、このくらいならできるからやってみたい、といったごく自然に生まれる助け合いの精神であるボランティアスピリッツを大切にしていきたいですね。



＜ナルク(NALC)吹田友遊悠へのお問い合わせ・連絡先は＞
〒565-0862 吹田市津雲台1-2-1 千里ニュータウンプラザ6F
ラコルタ内 TEL・FAX 06-6872-7557 HP <http://nalcsuita.com>

＜参加者プロフィール＞

- ◎渡邊 誠秀さん（関西大学社会学部2年）
福島県双葉町出身。被災者の立場から東北支援ボランティアグループ「Up to you」を立ち上げ、大学の仲間とともに被災地でボランティア活動をする。
- ◎齊藤 泰信さん（大阪大学法学部国際公共政策学科3年）
大阪大学災害ボランティアサークル「すずらん」所属。

- ◎山野 瞳さん（関西大学法学部法学政治学科4年）
市民参画及び協働に関して審議する「吹田市市民自治推進委員会」の公募委員。
- ◎馬場 しずかさん（滋賀県立大学人間文化学部人間関係学科2年）
不登校児童生徒の居場所づくりに取り組む「NPO法人ここ」のスタッフ。
- ◎山口 侑賀子さん（神戸女学院大学文学部総合文化学科2年）
学内サークル「日本国際学生協会 I.S.A.」所属。豊中市千里文化センター「コラボ」にて子ども向けイベントのサポートを行う。